

# 大津けいはん タイムス

深い森に包まれた日吉大社参道に入るとすぐ出合うのが幅5mの大宮橋（写真）である。下流側に走井橋、二宮橋と続く。天正年間に豊臣秀吉が寄進した木橋が寛文9（1669）年に花崗岩の石橋に掛け替えられた。日本では最古級の石橋である。走井橋には杉の大木の枝が龍のように橋の上に乗っている。大宮橋と共に人気のパワースポットだ。権禰宜の矢頭英征さんは「橋を渡り靈氣を感じ楽しんでいただきたい」と話す。

**日吉三橋** 坂本駅から徒歩10分



瀬田川には、東海道本線、国道1号、瀬田の唐橋、東海道新幹線、名神高速道路、京滋バイパスと、主要交通手段のための橋が架かっている。

その一番北側が、三連アーチがとても綺麗な瀬田川共同橋。昭和42（1967）年に瀬田町が大津市と合併した後、水道・ガス・電話のライフラインを渡すために計画され、昭和47年に完成した。

普段何気なく目にしているが、その役割を知ると一層深く見える。

**瀬田川共同橋** 京阪石山駅から徒歩5分



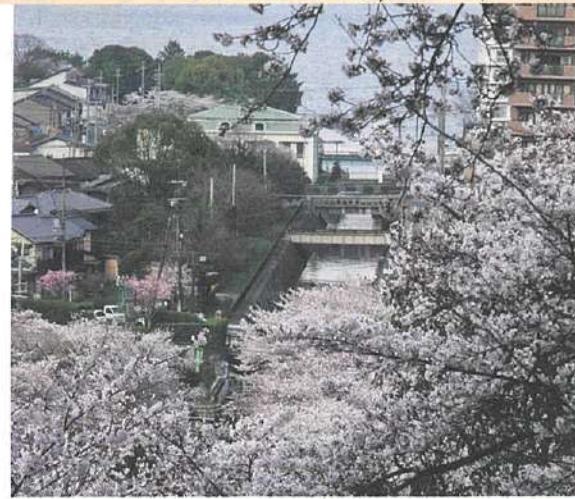
大正元（1912）年に札の辻～三条大橋間で開業した京津線。大正10年8月にJR東海道線の線路移設に伴い、上関寺付近に設けられた跨線橋。JRでの施設名は上関寺トンネルだが、京津線ではJR東海道線蟻丸跨線橋となっているのが興味深い。橋が掛けられた当時は、煉瓦造りだったが、線路増設に伴う架橋ではコンクリートとなっている。蟻丸跨線橋は、今日に至る鉄道構造物の変遷を伝えている。

上栄町駅から徒歩5分

**JR東海道線蟻丸跨線橋**



## 沿線の橋ものがたり



三井寺本堂から観音堂に行く境内に、静かに佇む苔むした欄干の石橋がある。開祖智証大師円珍がこの橋を渡っている時、中国の青龍寺の火事を感知、大師が闘伽井（あかい）の水を撒くと橋の下から村雲が湧き上がり中国の方に飛んで消し止めたという伝説がある。石の権威で「石の長者」といわれる木内石亭の著作全集によれば、村雲橋の下に火難除けにご利益がある村雲石があるという。地中深くにあるのだろうか。

**村雲橋** 三井寺駅から徒歩10分



**疏水にかかる六つの橋**

三井寺駅下車すぐ  
三井寺駅で下車して一番に目に入るのは、明治23（1890）年開通の第一琵琶湖疏水。幅約10m。従来の街路を分断したため疏水建設時に「鹿闘橋」「北国橋」「三保ヶ崎橋」が架けられた。その後、大正11（1922）年京阪電車開通時に「疏水橋鉄橋」、大正14年江若鉄道開通時に鉄橋（現・大津絵の道）、昭和35（1960）年国道161号開通時に「新三保ヶ崎橋」と、琵琶湖から長等山トンネルまでの約600mの間に橋が6つも架かることになった。

えんせんのはしまのがたり

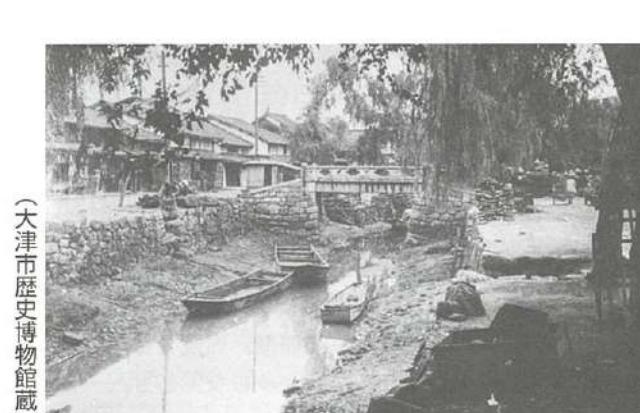
**小舟（こぶな）入りの鉄橋**

島ノ関駅から徒歩1分  
島ノ関駅で下車し石場駅方向へ、線路沿いを注意深く見ながら歩くと、小さな鉄橋が見つかる。そこには「橋梁名 小舟入川橋」と記されている。このあたりは、江戸時代小舟入りと呼ばれる入り江で対岸の草津の矢橋と結ぶ舟着場だった。明治13（1880）年、政府は大津（現・浜大津）～馬場（現・膳所）間に鉄道を通すため小舟入りに鉄橋を架けた。130年の時を経て、京阪電鉄大津線となつた現在もその鉄橋は、電車を通し続けている。



浜大津駅近くにある川口公園は不自然な程の細長い公園。それもそのはず、大津城の中堀跡で、江戸時代には舟入り堀とされていた。昭和になって埋め立てられて公園となった。その川口堀に架かっていた堅固な石橋は、役目を終えることなく、近くの長等公園に移設された。自然に恵まれた広大な長等公園の一隅で池に架かる川口堀の橋は、春は桜、初夏は新緑、秋は紅葉の下で市民の目に触れ続けている。（①左は川口堀時代の橋）

**長等公園に移設された**



**川口堀の橋** 上栄町駅から徒歩10分

2013年 秋

発行：大津の京阪電車を愛する会

発行日：2013年10月3日

唐橋前駅で下車すると、東側に「唐橋を制するものは、天下を制する」で名高い瀬田の唐橋が見える。唐茶色の欄干に青銅の擬宝珠を並べ、ゆるやかな曲線を描いて瀬田川に架かっている（写真①）。優雅な風情を漂わせ、幾度も戦いの場となったとは思えない。

壬申の乱（672年）では大友皇子軍と大海人皇子（後の天武天皇）軍の決戦、後鳥羽上皇と北条義時が戦った承久の乱（1221年）など、数多くの歴史の舞台となった。橋は何度も壊され、焼かれながら、京都の東の関門、東日本と西日本を繋ぐ要であり続けてきた。

壬申の乱のころは木橋で、今の橋より約400年前にあった。織田信長が天正3（1575年）に現在の位置に架け替えさせたといわれる。唐橋は何度も架け替えられ、江戸中期から擬宝珠をつけ始めた。擬宝珠は大橋に34基、小橋に12基ある。傷みの少ない擬宝珠は使い回しれている。橋を渡りながら古い年号の擬宝珠を見つけるのも楽しい。

唐橋といえば俵藤太（藤原秀郷）が940年、竜神に頼まれ三上山の大百足（おおむかで）を退治したという伝説。唐橋の中ノ島には三上山の方を向く秀郷の像が建ち、東詰めの雲住寺には小さな六角形の百足供養堂がある。

中ノ島の唐橋のたもとに、オランダ人技師エッセルの指導で出来た鳥居川水位観測所がある。観測所の建物の周りには青の太い線で、明治29（1896）年の琵琶湖があふれた大洪水時の水位を示している（写真③）。この年の9月3日から10日間で1008ミリという豪雨が襲い、琵琶湖の水位は平時より3.76mも上昇。大津の中心部や湖岸町村はみな水浸しになり、唐橋も欄干まで浸かったという。

唐橋西詰め角に「油」とだけ書かれた素朴な看板が目に入った。町家風のそのお店は文化7（1810）年創業の油屋松村。昔は田上の農家から菜種を仕

入れて菜種油を製造販売していた。量り売りしていたので、一番盛んなころは「店の前に一升びんを持った人が電停あたりまで並びほどだった」そうだ。

東詰めには安政元（1854）年創業の荒物商「小間正」がある（写真②）。古い店構えで、農作業道具などが所狭しと陳列してある。扱う品数は2300種にもなるそうだ。「一番賑ったのは江戸時代、京都からお伊勢さん参りの人たちの往来が多くたと聞いている」と7代目店主の村田英王さん（66）。店で珍しいものは猩々（ショウジョウ）。近江には種痘を受けた子の家では猩々とダルマを祀る風習があった。村田さん

が朝夕見続ける唐橋。お気に入りは昔と変わらずが沈む時、まさに近江八景の一つ、瀬田の夕照で

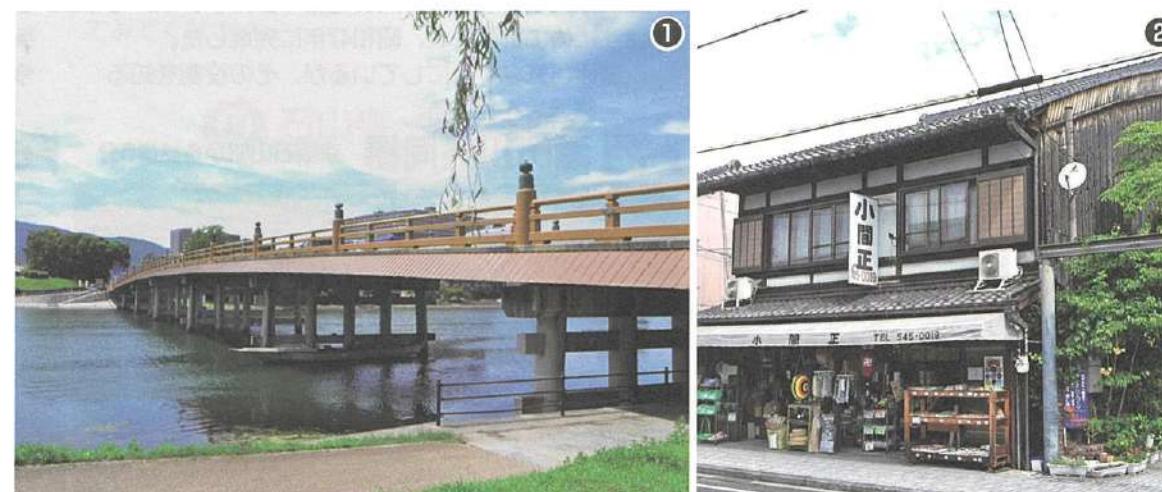
唐橋から東に足を延ばすと、日本武尊（やまとこと）を祭神とする建部大社がある。昭和20年8月戦後に発行された日本初の千円札（写真④）に日本武尊と建部大社本殿が描かれた。発行枚数多く幻の千円札と呼ばれる。

唐橋に立ち、古人と同じ川風に吹かれると、多くの人たちと出会えたような気になった。とても不思議だった。

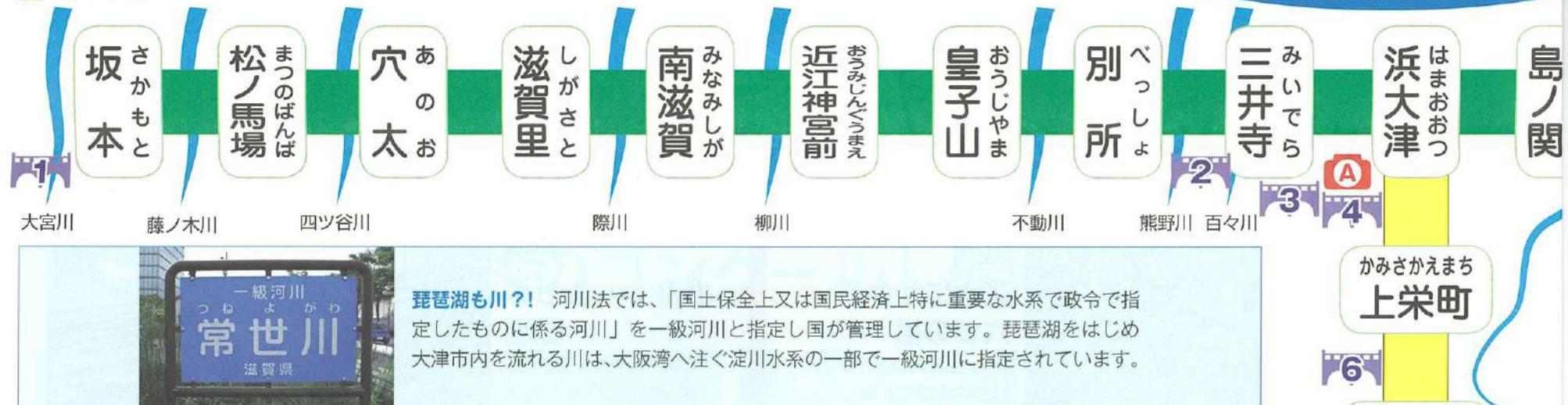
# 唐橋の川風の中、歴史と出会い

## 途中下車の小さな旅

### 唐橋前駅かいわい



#### 石山坂本線



琵琶湖も川？！ 河川法では、「国土保全上又は国民経済上特に重要な水系で政令で指定したものに係る河川」を一級河川と指定し国が管理しています。琵琶湖をはじめ大津市内を流れる川は、大阪湾へ注ぐ淀川水系の一部で一級河川に指定されています。

## 大津ジャズフェスティバル

10月19日(土)・20日(日)

12:00~17:00 (おまつり広場は~20:00)、入場無料



### 街歩き情報

### 今秋のお薦めイベント

#### かるたの聖地大津スタンプラリー

10月1日(火)~11月30日(土)

百人一首ゆかりの近江神宮、三井寺、そして大津歴史博物館を巡ってスタンプラリーを完成し、素敵な商品をゲット。11/3(日)近江神宮では流鏑馬も。

#### 企画展「百人一首かるたの世界」

10月5日(土)~11月17日(日)  
9~17時 (月曜休、祝日除)

大津市歴史博物館（別所駅下車）  
今も親しまれている小倉百人一首かるた。制作方法や図柄の変遷など意外に知られていないかるたの歴史と魅力を紹介。漫画「ちはやふる」の原画も展示。有料。

#### 勢多唐橋東西大綱引合戦

10月19日(土) 14時~  
瀬田の唐橋（唐橋前駅下車）

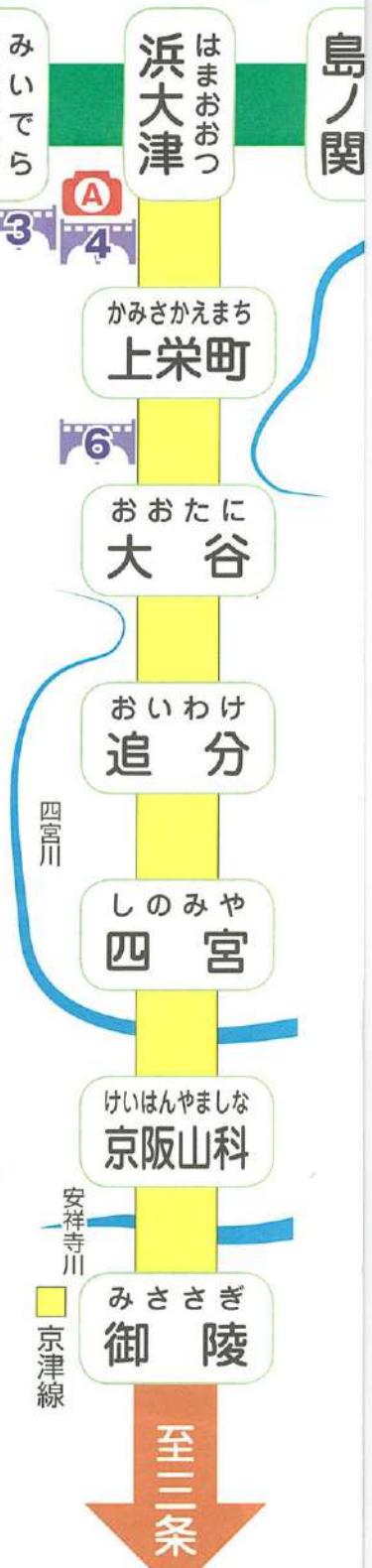
歴史上重要な合戦が繰り広げられたこの橋上を通行止めにし、全国から応募した200名が東西に分かれて戦う。初開催。周辺では名物市やライブなど多彩な催しも。

#### 大津百町まちなかバル

10月19日(土) 11時~  
京阪浜大津駅~JR大津駅かいわいの店

9月14日より67もの参加店舗やWEBサイト等で前売り券を販売。5枚綴り3,000円。当日券は3,500円。今回はランチメニューも登場。

#### 琵琶湖



山に夕日  
うる。  
とけるのみ  
月17日、終  
部大社蔵)  
が極めて少  
くの歴史上  
思議な感覚



NHKで昨年から今年にかけて滋賀発の地域ドラマ「石坂線物語」が放映された。ドラマ作りの中心になったのがNHK大津放送局のディレクター角田知慧理さん（写真左）だ。角田さんは新人として大津放送局に配属され、今年で5年目になる。ニュースや旅番組など幅広く手がけてきた。ドラマ制作のきっかけは、石坂線など大津の魅力を紹介する旅番組を担当した時の経験。京阪電車の女性運転士ら電車に

かかわる多くの人たちとの出会いがあった。職場の上司と語るうち、石坂線をテーマに作品が出来ないかというアイデアが浮かんだそうだ。大津放送局としてドラマ制作は初めてだった。「電車と青春 21文字のメッセージ」を毎年募集している「石坂線21駅の顔作りグループ」代表で「大津の京阪電車を愛する会」の会員でもある福井美知子さんに題材集めを相談しながら、ドラマの構想を練った。「華の火」「豆腐の味」

「おかえり」の3作品を考え、脚本家にシナリオを依頼、打ち合わせを重ねながらストーリーを固めていった。2本目の「豆腐の味」は、大津の町なかで豆腐屋を営む家庭の女子高校生の物語で、角田さんが演出を担当した（写真右）。

当然ながら、さまざまな場面で京阪電車が使われている。三井寺駅でのボイフレンドとの別れのシーンは、三井寺駅と坂本駅で撮影された。三井寺駅だけでは撮影に必要な停車時間を確保できなかった。ほかの作品でも、通常のダイヤの合間に臨時電車を走らせるなど京阪電鉄が全面協力した。エキストラは、大津放送局や、「大津の京阪電車を愛する会」「滋賀ロケーションオフィス」などが募集して、約200人が協力してくれた。

出演者にも滋賀にゆかりのある人がいた。女性運転士役の寺田有希さんは、大河ドラマ「江一姫たちの戦国」関連の歴史紀行番組でリポーターを務めた。上司役の渋谷天外さんも大津でアルバイトをしたことがあるそうだ。この2人が三つのドラマをつなぐ役割だった。

角田さんは大阪出身だが、就職以来ずっと大津に住み、石坂線は毎日のように利用して身近な存在だった。休日には琵琶湖に出かけたりする。自然が豊かで、穏やかで温かみのある人情が気に入っている。とても暮らしやすいところだという。

今後も地域から発信できる番組を作っていくたいそうだ。新たな滋賀発地域ドラマの計画もあり、今後もNHK大津放送局から眼が離せない。

## 京阪沿線でがんばる人たち

### 毎日のように石坂線利用



**NHKドラマ「石坂線物語」を担当した  
大津放送局ディレクター角田知慧理さん**



吾妻川 常世川



## 「掃除」「挨拶」そして「学問」 独自の校風育て学園創立140周年

**延暦寺学園**  
比叡山高校、比叡山中学、  
比叡山幼稚園

沿線の

学校へ  
行こう

石坂線の終点・坂本駅から日吉大社へ向むした穴太積みの続く参道を上ると、左手にレンガ造りの比叡山中学校。さらに里坊の並ぶ道を進むと日吉大社、鳥居前を左折すれば、急な坂の上に比叡山高校がある。延暦寺学園は、比叡山高校、比叡山中学校、比叡山幼稚園、比叡山学院から成り立っている。

学園のルーツは延暦7(788)年にさかのぼる。この年、伝教大師(最澄上人)が延暦寺を開創、入唐帰朝後の弘仁元(818)年、指導者の育成を目標に山家学生式の学則を制定した。その流れを汲む延暦寺学園は、明治6(1873)年創立の天台宗総會を母体として誕生、今年で創立140年になる。校舎の全面改築や、記念式典、大同窓会、瀬戸内寂聴師の講演などの記念事業を展開する。

「ここら辺りは毎朝、般若心経が聞こえるんですよ」と坂本在住の古老は語る。幼中高とも、宗教的な学校行事がある。登校時、まず伝教大師の童形像に合掌して一礼、10分間の朝礼では全校生が学園歌を歌い、般若心経を唱え、訓話を聞く。校舎からグラウンドに向けて放送するので、8時40分から般若心経が町にも流れるのだ。

学園の教育目標は「掃除」「挨拶」「学問」。県内有数の進学校だが、掃除、挨拶があってこそその勉学という姿勢を貫いている。毎日の学習環境を整えるために朝7時半から、教員と早朝練習の部員たちが昇降口を掃除。そして日吉参道を掃除する比叡山中学一年生の姿が日々見られる（写真右）。

卒業後も生徒たちの記憶に刻まれる行事に「三塔巡拝」がある。中・高校とも春に日帰りで比叡山の東塔・西塔・横川を礼拝して巡る。高校2年生の時には、研修道場に一泊して写経や法話、礼儀作法を学ぶ「居士林研修」がある。

高校には各学年数人ずつ、「宗内生」と呼ばれる生徒がいる。彼らは全国各地から来て、一般生徒のカリキュラムに加えて、天台宗の教義や僧侶としての自覚を形成していくカリキュラムを受ける。宗内生の多くは山家寮と呼ばれる寮で生活し、朝のお勤めや掃除など、仏道を目指した日常生活を送っている。

延暦寺との関係も深い。毎年開かれる比叡山世界宗教サミットでは、生徒や園児たちが平和のメッセージを書いて千羽鶴を奉納する。26回目の今年は平和メッセージ宣言者に初めて若者を選び、比叡山高校社会問題研究部の生徒が部として取り組み、8月4日に発表した（写真左）。同部は砂漠化と闘う内モンゴルで植林活動にも参加した。サミットでは毎年、吹奏楽部が演奏を担当している。硬式野球、女子ソフトボールをはじめ各部は、試合の前に律院の比叡南俊照大阿闍梨にお話を聞き、数珠を捧持して試合に臨むこともあるという。日吉大社の山王祭では硬式野球部が神輿運びを手伝い、下阪本の東南寺の戸津説法の際には茶道部が呈茶をし、地域の運動会で吹奏楽部が演奏したり、地域行事にも積極的に参加している。

家々の入り組んだところを走ったり、広々とした田園風景や琵琶湖が車窓から見渡せたりするなど変化に富む石坂線。意外な電車との組み合わせを見ることのできるポイントをご紹介する。

## 京阪電車知って得する! まめ知識

# 石坂線から意外な電車発見! 撮影スポットご紹介



### A 浜大津～三井寺駅

石坂線唯一の路面区間がある浜大津～三井寺駅間。この路面区間に様々なラッピング電車が行き交う中、京津線の4両連結の車両が走ることをご存知だろうか? 大津線の車両メンテナンスを、全て行っているのが近江神宮前駅横にある錦織車庫だ。従って、京津線の車両が点検・検査を受けるため錦織車庫を出入りするとき、石坂線を走る姿を見ることができる(写真①)。余談だが、浜大津駅初発の京津線列車となる車両は、石坂線の初発列車よりも先に、近江神宮前駅から浜大津駅までを走行する。

京津線との接続駅で、大津線の拠点となる浜大津駅。石坂線や京津線の列車は交差点で信号待ちをする事が多く、路面上を行き交う列車の姿を数多く撮影することができる(写真②)。

ここで、少しご紹介したいのが列車の走行音。「ガタンゴトン」とよく例えられるが、本来は規則正しく電車の左右の車輪が線路のつなぎ目を通過するときに聞こえる音だ。浜大津駅では京津線と石坂線の線路が複雑に交差しているので、車輪がつなぎ目を通るタイミングが少しずれる。このため、ここでしか聞こえない独特の音が聞こえる。紙面では表現しづらいので、浜大津交差点に



写真を撮りに来たときには是非、列車の音にも耳を傾けてみてください。

### B 石山寺～唐橋前駅

坂本・浜大津方面からの石坂線列車に乗り、終着まであと一駅の唐橋前駅。ホームから東海道新幹線が走る姿を見る事ができるのをご存知だろうか?

定期列車では一日約300本近くの列車が行き交う東海道新幹線と、昼間時は7分半間隔で運行する石坂線の列車。駅のホームから石山寺駅の方に向けてカメラを構えると、東海道新幹線と石坂線の列車が交差するところを、一枚の写真に収めることができる(写真③)。

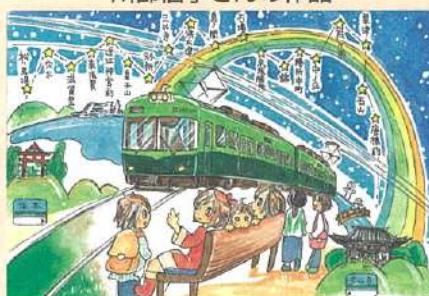
また、石山寺駅に向かって線路沿いの道をひと駅歩いて行くと、歩道から東海道新幹線と石坂線の交差地点の間近にたどり着くことができる。歩行者の邪魔にならない様に撮影には注意が必要だが、唐橋前駅のホームから見るのとは、また違った一枚が撮れるだろう(写真④)。

今回ご紹介した以外にも、まだまだ良い写真の撮れるスポットは、撮影される皆さんの数だけあるだろう。一度じっくりと、ハイキングがてら沿線の社寺・街なか探索とあわせて、石坂線の線路沿いを歩いてみるのもいいかもしれない。



## 「京阪電車の絵のコンクール」最優秀作品決定

川部信子さんの作品



大津の京阪電車を愛する会では、市内を走る「京阪電車の絵のコンクール」を行いました。

中島咲弥花さん(8)の作品



応募総数は67通、9月中旬に審査を行いその中から、いずれも大津市在住の方の3作品が最優秀作品に選ば

岡本奈津子さんの作品



れました。最優秀作品は次年度以降の会員募集チラシ、会員証、一日乗車券のデザインとして採用されます。3作品とも、見ているだけで京阪電車が市民の足として愛されている様子が伝わってくる点が評価されました。

また、全体的に京阪電車の特徴をうまくとらえた作品が多く、子どもらしい多彩な色合いの背景と京阪電車の緑色をうまく組み合わせた作品も多く寄せられました。

なお、応募作品は明日都浜大津・市民活動センターで平成25年10月1日(火)から10月23日(木)まで展示しています。

### ■「お坊さんめくり大会」「落語電車」

大津の京阪電車を愛する会では、11月16日(土)に近江神宮で「お坊さんめくり大会」を、12月7日(土)に京阪電車内でプロの落語家さんのお咄を聴く「落語de電車」を開催します。応募方法など詳細につきましては、それぞれ1ヶ月前をめどにホームページに掲載いたします。お坊さんめくり大会では景品もありますので、皆様奮ってご参加ください。

### 大津の京阪電車を愛する会

<http://www10.ocn.ne.jp/~ok-love>

〒520-0047 滋賀県大津市浜大津4丁目1-1  
「明日都浜大津」1階 市民活動センター内

TEL/FAX: 077-523-6238  
(事務局は、土曜日の午後1時~4時に開いています)

〒520-8575 滋賀県大津市御陵町3-1  
大津市建設部交通・建設監理課  
TEL: 077-528-2736 FAX: 077-521-0427

## 大津の京阪電車を愛する会 会員募集中!

「大津の京阪電車を愛する会」は貴重な公共交通機関である京阪大津線の利用促進を図ることを目的として、平成17年11月に設立された市民団体です。電車内や京阪沿線で行う各種イベントを通して京阪電車にふれあう機会をつくり、利用促進を図る活動を行っています。皆さんも本会と一緒に京阪電車大津線を支えていきませんか?

### 入会方法

- 入会は1口2,000円です。
- ご住所、ご連絡先を電話(077-528-2736)、FAX(077-521-0427)にてお伝えいただければ、申込用紙兼振込用紙をお送りさせていただきます。
- 申込用紙兼振込用紙に必要事項をご記入の上、最寄りの郵便局で会費をお振ください。後日会員証、乗車券等をお送りいたします。

### 会員特典

- ☆1口(2,000円)につきA、Bいずれかの乗車券がついてきます。
  - A. 一日乗車券(500円相当×2枚)
  - B. 普通乗車券綴り(160円区間×6枚)
- ☆市内約40施設で割引等の特典が受けられる会員証1枚。
- ☆本会主催のイベント案内等を定期的にお送りします。



申込用紙は京阪大津線各駅に設置しています。  
郵便番号・住所・氏名・連絡先を記入してください。  
郵便局で振込んでください。